

## 白い砂浜の維持管理について

白い砂浜になった「いなげの浜」について、寄せられること多いご質問とその回答をまとめました。



### Q.1 白い砂は流出していないのでしょうか？

A 白い砂は深さ70cmの厚さで敷き均していますが、令和元年の秋の2度の台風の後でも、大規模な白砂の流出はみられず、大部分は、そのまま残っています。

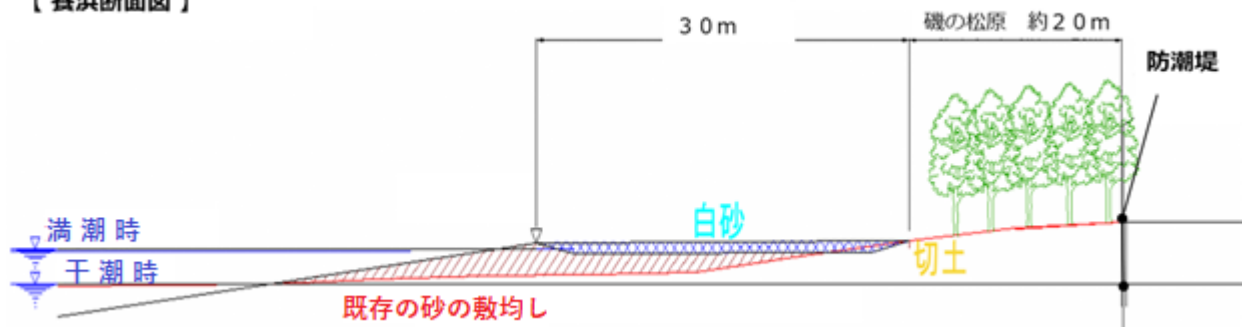
白砂による養浜工事（砂の補充）の前に、「潜堤」という砂浜の浸食を抑制する施設を整備しており、その効果も一定程度あったものと考えられます。



### Q.2 波打ち際の砂はあまり白くないようですが？

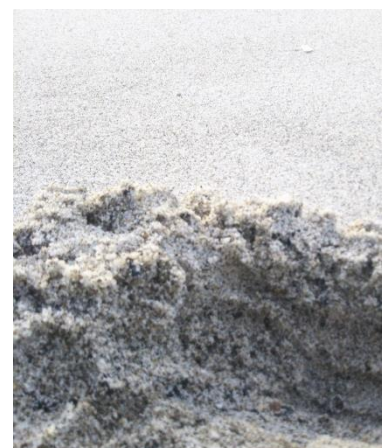
A 今回の工事で白砂を投入した範囲は満潮時の波打ち際までで、波打ち際から先は既存の黒い砂となっています。工事完了から時間の経過とともに、波打ち際の白砂が少しずつ既存の砂と混ざり合ってきており、今後、徐々になじんでいくものと考えています。

【養浜断面図】



### Q.3 だんだん白さがなくなっているように感じますが？

A 台風などの大波が打ち寄せたことで、波打ち際より先の黒い砂が白砂の表面に乗り、少しずつ混ざってきています。時間の経過とともに、当初の「真っ白」な状況から少しずつグレーがかった色になっていくと思いますが、今後、状況に応じて砂を耕耘する（下の真っ白な砂と表面の砂をかき混ぜる）などにより、自然な白さを保っていく予定です。



**Q.4** ところどころ砂浜が黒っぽくなっているが？

**A** 南風が強く吹いた直後は、大波をかぶるため、部分的に波で運ばれた黒い砂が表面にたまることがありますが、次第に目立たなくなっています。



**Q.5** 白い砂がくすんだ色に見えるが？

**A** 雨の後など、砂が水分を含んでいるとくすんだ色（グレー）に見えることがあります。晴れて砂が乾燥すると白く見えるようになります。

**Q.6** 波打ち際に見られる黒い砂利は何ですか？

**A** この砂利は、砂の流出を抑制するために、最初に砂浜を造成した際に撒いたもので、40年以上経過した現在も残っているものです。いなげの浜全体の砂の維持保全に大きな役割を果たしていますので、そのまま残しています。



○いなげの浜は、漂着物の除去等の清掃を毎日実施しています。  
今後も「いなげの浜」が皆様に愛される浜となるよう、管理に努めてまいります。  
ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

